

2. 魅力ある高等学校の設置

(1) 単位制高校

【現行再編計画】

全日制高校については、総合学科だけではなく、普通科や一部の専門学科を含め、16校程度設置する。

なお、定時制の課程及び通信制の課程は、原則として単位制とする。

※ 単位制高校とは、学年の区分がなく、生徒が自らの興味・関心や進路希望等に応じて履修する科目を選択し、修得単位数の合計が卒業に必要な単位数を満たせば、卒業できるシステムの高校

【実施状況】 全日制高校 16 校及び定時制課程、通信制課程に単位制を導入

	単位制導入校
第 1 期	総合学科：八街(H15)、君津青葉(H16)、安房拓心(H17)、勝浦若潮(H17) 国際高校：成田国際(H18)、松戸国際(H18) 普通科等：佐原白楊(H15)、幕張総合(H15)、佐倉(H17)、長生(H17) 通 信 制：千葉大宮(H18) [三部制定時制併置校：松戸南(H18)]
第 2 期	市原八幡(H18)、千葉東(H20)、船橋西(H20)、印旛明誠(H22) 夜間定時制(H18) [三部制定時制併置校：生浜(H19)]
第 3 期	船橋(H21)、木更津(H21)

【前期分に係る評価】

- 多様な選択科目の設定、進路希望や習熟度等に応じた主体的な科目の選択、二学期制導入による授業時間の確保など、多様な進学志望への対応が図られた。
- ガイダンス機能の充実を図っていることから、生徒が早期に進路について関心を持ち、科目を選択することで、学習意欲が高まっている。また、単位制による多様な選択科目の設置に伴う職員の配置などにより、生徒の興味・関心、能力・適性、進路希望等、個に応じた指導が可能になっている。
- 社会人や地域の人々が受講可能な科目を設定し、科目履修生として受入れ、県民の生涯学習ニーズに応える「地域の学習センター」としての役割を果たす学校づくりも見られる。
- 大学受験等にかかわらない科目の軽視や、安易な科目選択にならないよう、キャリア教育の一環として十分な科目選択指導が必要である。
- 単位制の良さが生徒・保護者・中学校側に十分理解されていない状況が指摘されており、今まで以上に広報していく必要がある。

(2) 総合学科の設置

【現行再編計画】

総合学科については、既設校の再編により、全県的なバランスを考慮しながら、各学区に1校程度を目標に、計9校程度設置する。

※ 総合学科とは、普通科目と専門科目を幅広く開設し、生徒が自らの興味・関心や進路希望等に応じて、主体的に科目を選択しながら学習できる単位制の学科

【実施状況】 専門高校からの転換により、4校に総合学科を設置

	総合学科設置校
第1期	八街 (H14) : 総合学科単独校 君津青葉 (H15) : 総合学科単独校 安房拓心 (H17) : 総合学科 勝浦+御宿 → 勝浦若潮 (H17) : 総合学科

【前期分に係る評価】

- 4校とも従来から専門学科の実績を有している学校であったことから、その良さを活かした科目の開設などが可能となっている。また、地域産業との関連が強く、地域の産業振興、発展に大きな期待が寄せられている。
- 1年次にすべての生徒が「産業社会と人間」を履修し、2年次から生徒の興味・関心、進路希望等に応じてカリキュラムを編成し、多講座展開での少人数学習も可能となるなど、生徒が生き生きと学習できる環境が整い、学習意欲の向上に大きな役割を果たしている。
- 選択科目が多く、ホームルーム単位で授業を受けることが少ないことから、担任による生徒の掌握や学級経営に工夫が必要である。
- 総合学科の特徴や魅力、「産業社会と人間」の学習内容などが中学生や保護者、中学校側に十分理解されていないとの指摘があり、今まで以上に総合学科について広報していく必要がある。
- 再編計画では総合学科を9校程度設置するとしており、専門高校の総合学科への転換は4校で実施したものの、普通科の設置比率の高い学区での普通科高校の総合学科への転換がなされていない。今後の総合学科のあり方については、総合学科の特性や地域の状況を踏まえ、十分に検討を加える必要がある。

(3) 中高一貫教育校

【現行再編計画】

6年間一貫の中等教育学校を2校程度、市町村立中学校と接続した連携型一貫校を2校程度設置する。

なお、設置に当たっては、既設の全日制高校を転換することを原則とする。

【実施状況】 連携型中高一貫教育校を1校、併設型中高一貫教育校を1校設置

	中高一貫教育校設置校
第1期	関宿 (H16) : 連携型
第2期	千葉 (H20) : 併設型

※ **連携型** : 既存の市町村立中学校と都道府県立高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の面で連携を深める形で中高一貫教育を実施するもの。

併設型 : 高等学校入学者選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高等学校を接続するもの。

【前期分に係る評価】

連携型

- 中高の連携により、連携中学校から入学した生徒への、きめ細かな指導や6年間を通じた継続的な指導が可能となっている。
- 地域の祭礼等への積極的な参画があり、地域の高校として親しまれている。
- 高校入試の影響を受けずに、ゆとりの中で生徒一人一人の個性をより重視した教育が実施されている。一方で高校入試による動機付けが薄れ、中学校での学習意欲の低下を懸念する声もある。
- 連携による教育効果をさらに高められるよう引き続き検討するとともに、生徒数の減少が続く連携中学校からの生徒数の確保に努める必要がある。

併設型

- 開校理念に沿い、公立の中高一貫教育校として、受験準備に偏したいわゆる受験エリート校とは一線を画した独自の特色ある教育実践を展開している。
- 中高一貫教育校ならではの特色を生かし、異なる年齢集団による活動を積極的に取り入れ、社会性や豊かな人間性を育てている。
- 学校設定教科の「学びのリテラシー」、総合的な学習の時間の「ゼミ」や「プロジェクト」等、特色ある学習により主体的に学習に取り組む姿勢が身につく、個性や能力の伸長が図られている。
- 授業や部活動のための施設・設備の整備、中高一貫教育の特色の一つとなる高校生との交流の充実、生徒が気軽に相談できる体制づくりなどさらに配慮が必要である。

(4)「芸術科」の設置

【現行再編計画】

音楽、美術、工芸、書道の従来からある芸術科目だけでなく、演劇や古典芸能などを含めた芸術分野の中から選択して専門的に学習する「芸術科」を、2校程度に設置する。

【実施状況】1校設置

	芸術科設置校
第1期	松戸 (H16)

【前期分に係る評価】

- 美術に関する基礎から発展的な学習まで「素描」「彫刻」「クラフトデザイン」など幅広い芸術専門科目が置かれ、芸術科の特色になっている。芸術系大学への進学など、芸術科の設置が学校全体の活性化に繋がっている。

(5)「情報科」の設置

【現行再編計画】

コンピュータの構造、文書処理や表計算などの基本的な知識や利用技術だけでなく、例えば美術や音楽などの創造的な表現力の要素も取り入れ、情報機器を最大限に活用した教育内容を持つ「情報科」を、2校程度に設置する。

【実施状況】2校設置

	情報科設置校
第2期	柏西+柏北 → 柏の葉 (H19)：情報理数科
第3期	袖ヶ浦 (H23)：情報コミュニケーション科

【前期分に係る評価】

- 少人数によるゼミ形式の授業や問題解決型の授業を展開し、情報活用力・表現力・課題解決力を身につけ、情報理数科祭や研究発表会等を通じ、情報発信している。また、早朝補習や勉強合宿などきめ細かな学力向上支援、立地条件を生かした高大・企業連携などにも積極的に取り組み、特色ある学校づくりの核となっている。(柏の葉)

(6) 女子校の共学化

【現行再編計画】

男女共同参画社会の進展を踏まえ、原則として女子校を共学化する。

女子校 13 校のうち 11 校程度を共学化し、残る 2 校程度については、女子校に進学を希望する生徒に配慮し、学区を県内全域とするなどして存続する。

【実施状況】 女子校 13 校のうち、11 校を共学化（女子校 2 校）

	共学化実施校
第 1 期	若葉看護(H14)、佐原女子(H15)、松戸(H16)、茂原(H16)、大多喜女子(H16) 佐倉東(H17)、御宿(H17)、松尾(H18)、野田(H18)
第 2 期	銚子(H19)、安房南(H20)

【前期分に係る評価】

- 共学化は男女の自然な交流ができ望ましい姿であり、実施した多くの学校で志願確定倍率・大学進学率などの向上、生活指導面での改善、部活動の充実、学校行事の活性化等が見られる。
- 特に学校数の少ない地域における共学化は、男子生徒の学校選択幅の拡大、学校配置の適正化の推進等、総じて地域のニーズに的確に対応したものといえる。
- 男子生徒の比率が 30%以下の学校もあることから、男子生徒がさらに魅力を感じる学校づくりに努める必要がある。
- 残る 2 校の女子校（千葉女子高校・木更津東高校）については、女子校に入学したいという中学生の志望も少なからずあることや地域の状況を考慮し、学区のあり方を含めて検討していく必要がある。



〔茂原(共学化)・学年レクリエーション〕

〔木更津東(女子校)・音楽コンクール〕



(7) 国際高校の充実

【現行再編計画】

外国人子女や帰国子女の受入れの拡大を図る一方、コミュニケーション能力にたけ、外国人と協同して創造的な仕事ができ、かつ、日本文化の発信役となるような真の国際人が育成されるよう、教育内容及び方法のさらなる充実を図る。

単位制を導入し、外国人子女や帰国子女の受入れや、海外の学校と連携しての留学を一層促進するとともに、異年齢集団での授業の展開を図る。

【実施状況】 国際高校に単位制を導入

	単位制導入校
第1期	松戸国際 (H18)、成田国際 (H18)

【前期分に係る評価】

- 教育課程や学校行事等の工夫を行い、「原書講読」「プレゼンテーション」「日本文化」(松戸国際高校)、「スーパー・イングリッシュ A・B」「スピーチ」「速読」(成田国際高校)など多様な選択科目を設置し、外国籍生徒や留学生との交流も日常的に行われ、異文化理解が活発に進められている。

(8) 総合技術高校

【現行再編計画】

学校や学科の統合により、例えば農業科と工業科など複数の学科を併置し、専門学科の枠を越えた学習も可能とする「総合技術高校」を2校程度設置する。

【実施状況】 2校設置

	総合技術高校設置校
第1期	茂原農業+茂原工業 → 茂原樟陽 (H18)
第2期	館山+安房水産 → 館山総合 (H20)

【前期分に係る評価】

- 茂原樟陽高校は、農業科と工業科の生徒がともに選択できる自由選択科目を設定するなど、両学科の良さを取り入れた教育活動が行われている。再編計画ではキャンパスを集約化することとしていたが、平成21年度まで旧茂原工業高校の校舎を併用しており、校舎間移動等の課題を残す結果となった。総合技術高校としての評価は、工業実習棟の完成後に見直すこととする。(茂原樟陽) ※工業実習棟はH22に完成